

第2章 令和4年度『場面を絞ったICTの効果的活用の探求』

第1節 研究動機およびスケジュール

1 研究動機および目的

特別支援教育におけるICT機器活用の視点として、「教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするための視点」、「障害による学習上又は生活上の困難さを克服・改善するための視点」の2つの視点が上げられている(文部科学省「特別支援教育におけるICT活用」参照)。令和3年度は、教科指導・学習上でのICT機器活用に焦点を絞り、授業におけるICT機器活用について研究を行った。今年度は、学習上だけでなく、生活上の困難さにも視点を広げ、様々な場面におけるICT機器の効果的な活用方法について模索する。

研究方法としては、各学級内で場面を絞り、学びにくさやコミュニケーションの困難さに対してICT機器を用いてどのようなアプローチが可能か話し合い、取り組む。更に、各学級で取り組んだ結果を全校で共有することで、様々な場面におけるICT機器活用の向上をめざす。

2 スケジュール

日時	
6月15日	部会で今年度の研究内容の確認
	学級で場面を絞り、ICT機器を活用した支援方法についての話し合い
8月26日	全校に向けて、実践内容の例示や参考資料を提示
	実践内容をもとにシートの作成
11月22日	全校でグループに分かれて、報告及び意見交換
	引き続き、各学級での取り組み
3月7日	シート及び意見交換会をもとに、まとめの報告

意見交換会の流れ(事前に6グループ連絡)

16:15~17:00	各会場にて学級ごとにシートをもとに発表 絞った場に対する支援方法 児童生徒の様子 取り組んだ期間 日常でICTを活用しての感想 *参考となる児童・生徒の様子を収めた画像があればモニターに提示
-------------	--

第2節 研究報告

1. 全校研究

(1) 小学部の報告

①報告クラス 17学級

②使用場面 登校後7、朝の会2、休み時間2、給食前1、下校前6、帰りの会1、生活全般1、授業4、教室移動時1、他社に気持ちを伝えるとき1、気持ちの切り替え時1

③使用機器 タブレット型端末13、スマートフォン3、パソコン1

④ICT機器を使っでの使用方法

⑤業務改善の点から気づいたこと

⑥各報告書(抜粋)

小1①

使用場面:給食(iPad「Keynote」)

<対象児童について>

- ・言語でのやりとりがある程度できる。・指先の不器用さがある。
- ・失敗することに対しての不安感が強く、活動に取り組めないことがある。
- ・興味があることに対しての衝動性がある。教員からの注意や言葉かけで行動を切り替えることが増えてきている。・称賛的な言葉かけを喜ぶ。・AをしたらBをするという順番や条件の理解ができる。

<支援の手立て>

手本となるイラストを提示し、取り分けたお椀内の食べ物を3指もちで食べることができたら「いいね!」のイラストをおすことができるという流れを作る

【教育的目標】

- ・スプーンを3指で、下から持って食べることができる。
- ・左手を使用せずに(お椀を持って)食べることができる。

【様子および効果】

9月:にぎり持ちから3指で持つ意識が芽生える。教員からの言葉かけで自ら3指持ちに持ち帰ることができる。

9月28日~:「Keynote」の操作を嫌がる。(「いいね、しない」との訴え)いいねはしないが、イラストを見て3指持ち、左手を使用しないよう確認をする。

9月30日 :イラストを不提示にしてみる。上手持ちになりがち。

10月~ いいね!のKeynoteは使用せず、イラストのみの提示。時々上手持ちや左手をしようするが、当初よりも3指持ちが定着しつつある。

【今後に向けて】

保護者より、3指持ちが定着してきたと連絡帳にて連絡があり(10月28日)

食物の形態によっては手を使うことがあるので、言葉かけをしながら継続していく必要がある。

小2①

使用場面:登下校時の自立活動(荷物の準備、着替え、水分補給、排せつ等)、教室移動時、給食などスマートフォン(教員私物)、効果音アプリ(特に「ジェスチャーで音を鳴らす」機能:スワイプやタップなどの特定の動作で予め設定した特定の音が鳴る。

<対象児童について>(学級の複数児童)

<p>着替えなどの課題に取り組んだり、行動を切り替えたりすることが難しいことが多い。音や音楽への興味が強く、簡単な手遊びや効果音、曲などを聴くことで気持ちを切り替えられることが多い。</p> <p>タブレット端末を見ると、意図した用途以外で使いたがる児童が多い学級である</p> <p><支援の手立て></p> <p>スモールステップの課題を達成するごとに、言葉や動作と併用して効果音を鳴らし、称賛することで、行動への動機づけを高める。面白い音に興味を向けることで、気持ちを切り替えるきっかけとする。</p>
<p>【教育的目標】</p> <p>気持ちや行動を切り替えて課題に取り組むことができる。</p>
<p>【様子および効果】</p> <p>座り込んで拒否をしているときに、音を使ったやりとりをとおして気持ちを切り替えて活動に向かうきっかけになった。動作のたびに音を変えると、「次は何かな」という期待感で、楽しみながら着替えなどができることもあった。物や遊びを介した称賛よりも手軽に行うことができた。</p> <p>簡単なタップやスワイプのみで事前に設定した音が鳴るため、片手操作やポケットの中に機器を入れた状態などでも簡単に鳴らすことができた。</p>
<p>【今後に向けて】</p> <p>教員個人のスマートフォンにインストールしているアプリのため、他の教員や児童が使うためには GIGA タブレット端末等に入れる必要がある。ただし、手軽に音を鳴らすためには、片手で操作できてポケットに入るサイズが便利だと感じる。</p>

<p>小3①</p> <p>使用場面：生活全般、朝の会・帰りの会：質問に対する受け答え（タブレット端末（iPad）、「ごじゅーおん」）</p> <p><対象児童について></p> <p>ひらがなを読むことができる。ひらがなをなぞることができる。</p> <p>発語が見られず、「あ」とかろうじて発声する。</p> <p>生活にまつわることに関することは口頭指示である程度理解できる。</p> <p><支援の手立て></p> <p>文字ボードを提示して指で文字を示す。</p>
<p>【教育的目標】</p> <p>文字ボードを使ってコミュニケーションをとることができる。</p>
<p>【様子および効果】</p> <p>（メリット）・アナログの文字ボード（印刷したもの）では文字が残らないが、このアプリでは画面の上部に文字が残り、入力後に音声として流すこともできるので、1つの単語として音声で流すことができる。</p> <p>（デメリット）・タブレットの準備が必要。・電源が切れると使うことができない。・タブレット端末が重たいため、常に持ち運ぶのが難しい。</p>
<p>【今後に向けて】</p> <p>・文字ボードでのコミュニケーションをするには、文字をさす指の操作が必要であるため、本児の場合は押し間違えることが何度か見られた。日常生活の中で取り組むのであれば、文字ボードや ICT 教材にこだわらず印刷した写真カードなど具体物を用意する方が適切である場合もあると感じた。ICT 教材にこだわらず、一人ひとりに応じた支援、手立てを考える視点を忘れないようにしたい。</p>

小3②

使用場面：自分の要求を他者に伝える時（中庭 行ってきます・おかわり ください）、自分の気持ちを他者に伝える時（かなしい・おなか いたい）、（タブレット端末（iPad）「えこみゅ」）

<対象児童について>

- ・障害名は、自閉症スペクトラム障害である。
- ・少し言葉は出るが、単語（多くは名詞）で伝える。
- ・こだわりが強く、気持ちのコントロールや解消がうまくいかないと癩癩を起す。

<支援の手立て> ・「〇〇したら△△しよう」など、見通しの立てられるようか言葉かけをする。

- ・気持ちや行動を伝えるツールを使う。

【教育的目標】

他者と自分の意図をすり合わせ、気持ちをコントロールする。

【様子および効果】

・登校時の準備後から朝の会までの時間は、中庭に出て遊ぶこともあるが教室で何もせずに寝転んだりすることもある。何もせずに過ごしている時に「えこみゅ」を使って遊び道具のイラストを提示したが、興味をしめさなかった。

・給食後、お腹のあたりをおさえて「痛い!痛い!」と言っていたので、「えこみゅ」を使って体の部位のイラストを提示したが、遊び道具のしゃぼん玉など自分のやりたいことをアピールしていた。

【今後に向けて】

・既成のアプリでは、学校現場で必要とするイラストがなかったり、一度に示すイラストの数が多かったりして使いにくい場面もあった。一人ひとりの障がいや課題が違うので、現段階ではアナログの方が使いやすいと思った。

小5①

使用場面：登校後・下校前（タブレット「ワオっち!ランド」・「漢字アプリ」）

<対象児童について>

小学校1年生程度の国語や算数の学習をしている。

タブレットを使って学習などをするのが好き。

<支援の手立て>

朝学や宿題で取り組んだ漢字や計算などを、定着や般化を目的にタブレットのアプリでも取り組む。なぞときなど、思考する課題に教員と取り組む。家庭からの持ち物のうち、本児自身が忘れずに用意するものを学校へ持ってくるとシールを一枚渡し、10枚貯まるごとに「地図アプリ」など本児のすきなアプリをすることができる。

【教育的目標】

国語や算数の学習の定着、思考力、集中力の向上。タブレットを強化して、活動に取り組む。

【様子および効果】

プリントでは複数枚取り組めなくても、アプリであれば繰り返し取り組めるためより学習の定着になる。課題に粘り強く考えて取り組む経験を積むことができている。

今まで持ってくることができなかったエプロンやハンカチを、ほぼ毎日持ってくるようになった。

【今後に向けて】

タブレットやプリントだけでなく学習方法の機会も設ける。タブレットが強化子として機能しているため、忘

れ物が減った。本来は内発的に持ってくるべきものであると考えられるが、全く持ってこれなかったことを考えれば一定の効果があったと言える。今後、習慣として定着させつつ、強化子の頻度を下げ、賞賛など社会的な強化子に移行していく必要がある。

小6①

使用場面：朝の会の司会（タブレット「Keynote」）

<対象児童について>

朝の会の司会の際に注意散漫になってしまい、何度か教員が言葉かけをすることで集中しなおすことが多い。また、注意散漫になった際は、こちらから促しがあったり、支援をすることがあったりすることで再び取り組みなおすことがほとんどである。

<支援の手立て>

朝の日直の際に教員の言葉かけがなくとも自身で意識的に司会をおこなうことができるよう、タブレット型端末で確認しながら取り組めるようにする。

【教育的目標】

注意がそれることが多く、意識的に取り組んでいることを忘れてしまうことが多い。その為、自身で取り組んでいることについて振り返ることを行うと同時に自身で意識して集中的に取り組む時間を設ける。

【様子および効果】

以前までは、一つの項目ごとに注意がそれてしまい取り組めないことが多かった。また、近くで次は何であるかを提示したり、日直の当番カードを教員が指さして示したりすることなどで取り組むことが多かった。今はタブレット型端末を使用することで教員の言葉かけが少なくなり、自身で取り組むことができるようになってきた。

【今後に向けて】

朝の会で司会の担当の場合タブレット型端末を渡し、教員の言葉かけがなくともタブレット型端末を見て、自身の力で朝の会の司会をひとりでおこなえるようになってほしい。

(2) 中学部の報告

- ①報告クラス 15学級
- ②使用場面 登校後2、朝の会2、休み時間1、給食後1、昼休み3、下校前2、帰りの会3、生活全般1
エンジョイタイム2、
- ③使用機器 タブレット型端末12、スマートフォン2
- ④ICT機器を使つての使用法
- ⑤業務改善の点から気づいたこと
- ⑥各報告書(抜粋)

中1①

使用場面：朝の会・帰りの会(タブレット型端末、カメラ・写真)

<対象生徒について>

多動であり、覚醒していれば走り回ることが多い、切り替えの場面が適応しにくい。

友だちには興味あり。特定の音楽にも興味あり。

<支援の手立て>

・タブレット型端末に写真を映し出し、その後写真の人物の近くに行き、見比べて、出席確認ができるようにする。

・姿勢を維持して集中できるようにする。

【教育的目標】

イスに座るなど、落ち着いた体勢で、物事を注視する。

【様子および効果】

メリットとしては、写真には興味を示し、集中して見る事ができた。写真の人物の近くまで行き、見比べることができる場面も増えつつある。

デメリットは、タブレット型端末の操作に興味があり、触れたい思いが強いときもあり、なかなか進行できないことがあった。

【今後に向けて】

・まずは、落ち着いて集中してタブレット型端末を見ることが出来る環境設定が必要である。

・本児に視覚的に提示する際には、タブレット型端末の位置や対象人物の位置などを考える必要がある。

・タブレット型端末の操作に興味を沸き、出席確認に気持ちが向かない様子が増えれば、写真などにしたほうが良いかもしれない。

・本児以外の生徒がタブレット型端末に触れたい、操作したい気持ちがあり、取り合いになる様子もあったので、端末を使用すべきか、どうか今後の課題である。

中1②

使用場面：朝の自立活動(テレビモニター・iPad、「YouTube」)

<対象生徒について>

保護者が体力をつけてほしいと願っている。体力が少なく、すぐに疲れる。

<支援の手立て>

動画で動きをみて筋力トレーニングをする。

筋力トレーニングをしたあとに達成感を味わえために達成表にシールを貼る。

【教育的目標】

・体力をつけ、前向きに学校生活を送れる日を増やす。

【様子および効果】

動画で動きを確認することで動きが分かりやすく前向きに取り組めている。

【今後に向けて】

毎日取り組むことができていないので、継続的に取り組めるようにする。

中1⑤

使用場面：・好きな動画等を見ることで教室等で過ごし、時間を決めて学習活動等を行う。

・バスを見にバスパースに行く時に iPad の「タイマーアプリ」を使用し、本人と話をして決めた時間で気持ちを切り替え教室等に戻ることができるようにする。(タブレット型端末「YouTube」・「ネズミタイマー」)

<対象生徒について>

小学部 5 年ごろから授業に入り他児童と一緒に授業を受けるのが難しくなった。

洗濯機の脱水や排水溝に落ちる水、バスの換気扇や室内灯に興味がありバスパースやトイレ内の洗濯機に行くことが多かった。

<支援の手立て>

・ルールを守って使用する。(着替え、連絡帳を出す等済んでから。歩きながら使用しない。写真機能を使わない。等)

・バスパースにいる時間を、アプリを通じて確認する。

【教育的目標】

学年、学部活動に参加することができる。

集団に入り活動できる時間を延ばす。

【様子および効果】

入学当初、中学部エリアや教室にすることができず、小学部エリアやバスパースで過ごすことが多かった。中学部の教室や教員、友だちに慣れてきたこともあるが、iPad 等の「タイマー」や「ルーレット」のアプリを使用したり、動画を見ることで教室に入り授業に参加したり、スムーズに教室移動できるようになってきた。

【今後に向けて】

安定を図るためのツールとして iPad を使用することはよいが、活動とのメリハリをつけられるようになればいいと思う。iPad の使用時間を短くしていき、授業中の課題や色々な学校活動に参加できる時間を延ばしていきたい。

中2①

使用場面：朝夕の自立活動、昼休み等

(Apple iPad (第 8 世代)、「気合乃一吹(無料)」(本校 GIGA iPad の DMS Apps には無い)

<対象生徒について>

構音の課題もあるが、本児は囁き声で話すことが多い。

<支援の手立て>

・少しずつ、求める息の量を増やしていく。(アプリの機能で対応可)

<p>・適宜息を整えるよう促し、課題を達成しやすくする。</p>
<p>【教育的目標】 空気を多く吐き出すことで、平常時から大きく発声することのできるための土台作りを進める。</p>
<p>【様子および効果】 (メリット)・風船の割れる様子に反応を示しながら取り組むことができていた。 (デメリット)・レベル1からしか始められないため、難しい課題に到達する前に疲れる可能性がある。</p>
<p>【今後に向けて】 ・本児は呼気の力はあるため、今後は、発声することにより何かしらの変位を得られる教材を用いていくことが望ましい。 ・iPad(無印)のマイクが側面上部にあるため、画面がやや見づらい。本児は見ることはできていたが、他児で使用する場合、外付けマイク(認証済)を使ったほうがよいかもかもしれない。</p>

<p>中2② 使用場面：給食後(タブレット型端末・モニター(無くても可)・「AppleTV」(無くても可)、「ねずみタイマー」) <対象生徒について> 歯磨きに対する意欲が高まらず、歯磨きの継続時間についても理解が難しい(数秒で終わってしまう) <支援の手立て> 給食を食べ終えた後、歯磨きを促す。その際「ねずみさんと歯磨きしてみよか」など楽しい雰囲気言葉かけを行う。一定期間継続後、言葉かけを減らしていく。</p>
<p>【教育的目標】 食後、自分から歯磨きを一定時間行う習慣を身につける</p>
<p>【様子および効果】 「ねずみさん1分」など自分から歯磨きに行こうとする姿勢がみられるようになった。タイマー終了まで磨くことができるようになった。保護者にも連絡帳を通じて取り組みの様子を伝えた。</p>
<p>【今後に向けて】 継続して使用し、次年度以降に向けて引継ぎを行っていく。</p>

<p>中3① 使用場面：朝の会・帰りの会(タブレット端末、写真アプリ(アルバム機能)) <対象生徒について> 2語文程度の発語で、発音が不明瞭なことが多い。長い文章を覚えることに課題があるが、平仮名を読むことは一通りできる。 <支援の手立て> ・生徒が自分で操作しながら、朝の会と帰りの会を進行できるようにするために、朝の会と帰りの会の手順シートを小さなまとまりごとに写真にとり、「朝の会」「帰りの会」というアルバムを作成し、順番通りに並べておく。 ・写真をめくる指の動きを生徒が覚えるまでは、教師が手を添えて、生徒と一緒に指を運ぶ。</p>
<p>【教育的目標】 自信を持って、はっきりと発音することで、相手に伝わる成功体験を味わう。</p>
<p>【様子および効果】 画面に書かれている文字を読むようになったことで、ゆっくり、はっきりと発音できている。また、「〇〇さん、</p>

おはようございます」の写真の中で、自分の名前が書かれた写真は自分でスキップするという判断と共にその操作もできるようになった。

【今後に向けて】
朝の会や帰りの会以外にもタブレットの活用場面を広げていき、発語する場面を増やしていきたい。

中3②
使用場面：朝の会・帰りの会（タブレット端末、録画機能）
<対象生徒について>
話し言葉でのコミュニケーションは手ぶりや表情、音声の強弱などを用いて取ろうとするが、発音が不明瞭なことが多い。言葉を省略して話すことが多く、話し慣れた親しい相手には言葉の意味が聞き取れるが、初対面の場合は聞き取ることが非常に難しい。
<支援の手立て>
・録画した映像と自分の音声を聴き、フィードバックして繰り返して練習できるようにする。
・手拍子でリズムを打ちながら、言葉を一つずつ当てはめて促し、一音一音わかりやすく示してゆっくり、はっきり話すことを意識しやすいようにする

【教育的目標】
はっきり、ゆっくり、大きな声で話し、自分の伝えたいことを伝える。

【様子および効果】
・当初から自分の映像を録ってもらうことが嬉しくて、少し緊張している様子であった。
・映像と音声を聞き、照れくさそうにするものの、自分の声に耳を傾け、不明瞭なことに気づいた様子で、何度も言い直して練習していた。
・手拍子に合わせて、言葉を発する練習を続けているが、言葉を省略したり、早口で言うことが多かった。

【今後に向けて】
・引き続き、自分の音声を聞いて、振り返って練習するとともに、友だちと一緒に発声して練習する機会も作っていき、教育効果を高められればと考える。
・言いたいことをわりとスムーズに伝えられる経験を重ね、一音一音丁寧に発音しようとする積極的な気持ちが育めればと考える。

中3③
使用場面：日常のあらゆる場面（休み時間・自立活動・問題行動の指導の際など）、
（タブレット端末、「Keynote」）
<対象生徒について>
対人関係（異性）での関わり方に課題を抱える生徒
<支援の手立て>
指導の際に、言葉だけでは伝わりにくいので、言葉とイラストを提示する。
【教育的目標】
正しい関わり方や距離感を身につける。
【様子および効果】
イラストを提示すると集中して試みることができ、質問したことに指さして答えることができる。
【今後に向けて】
中々定着がしないので、継続して言葉での指導と合わせて使っていく。

(3) 高等部の報告

- ①報告クラス 20学級
- ②使用場面 登校後1、休み時間1、給食後2、昼休み3、下校前2、生活全般1、自立活動(教科)14
他者に気持ちを伝えるとき1
- ③使用機器 タブレット型端末19
- ④ICT機器を使つての使用方方法
- ⑤業務改善の点から気づいたこと
- ⑥各報告書(抜粋)

高1①

使用場面：自立活動の授業(タブレット型端末「ActiveArcade」)

<対象生徒について>

人と話したい、伝えたいという意味は持っているが、発音が不明瞭で相手が理解できないことが多い。運動することが好きである。

<支援の手立て>

- ・ゲームのルール、操作方法を聞き取り、理解できるように、ゆっくりと話す。
- ・好きな運動を探すため、様々な活動に取り組む。

【教育的目標】

- ・様々な運動を体験して、自分の得意なスポーツを見つける。
- ・話の内容を理解し、受け答えすることができる。
- ・与えられた役割をやり遂げることができる。

【様子および効果】

(メリット)・ゲームをしたいという思いがあるので、聞くことに集中できた。

・順番を待つことや友だちを応援することができた。

(デメリット)・体調管理の面を考えると運動量は少ない。

【今後に向けて】

運動面よりも言語面での活用を考えていきたい。

高1②

使用場面：自立活動(タブレット型端末「YouTube」)

<対象生徒について>

気持ちの安定を図りにくい。感情のコントロールが苦手。自分の思うように行動し、時間を守ることができない。

<支援の手立て>

- ・曲の最後が視聴時間の終了と同時にないとイライラが募るため、時間になる前に言葉かけを行う。
- ・iPadの貸し借りの時の言葉遣いについて助言を行う。

【教育的目標】

- ・楽しく体を動かしたり歌を歌ったりすることで、ストレスを解消することができる。
- ・時間を守って活動することができる。

【様子および効果】

・音楽に合わせて、自分のペースで体を動かしたり歌ったりすることができている。

・時間を見ながら自分で曲の終わりを調節し、時間を守って視聴することができている。

【今後に向けて】

継続して、時間を守りながらストレスを軽減する方法を探し、実践していく。

高1③

使用場面：教科としての自立活動の時間（タブレット型端末「YouTube」）

<対象生徒について>

身体的発育が進む一方、運動、栄養のバランスが崩れている生徒が多い。また、運動の有効性についての理解に乏しい。

視覚的な情報を優位に捉えることができる。

<支援の手立て>

音楽や人気の有名人が躍っているダンスの動画を活用し、運動に対するプラスのイメージを持たす、内容を段階的に難しくしていき、できた経験を積み自信をつけさせる。

【教育的目標】

運動習慣を確立する。

運動の楽しさ、心地よさを感じ、運動に対しての自主的な態度を養う。

運動の有用性を理解する。

【様子および効果】

・繰り返し学習することで、体の動かし方を身につけられるようになってきた。

・音楽や視覚的情報を好むため、意欲的に取り組む姿が見られる。

【今後に向けて】

運動が苦手な子も意欲的に取り組むことができるよう、動画を用いてストレッチ、トレーニングなどの体づくりに広げていきたい。

高2①

使用場面：自立活動（タブレット型端末、様々なコミュニケーションアプリ）

<対象生徒について>

・緘黙症のため発語がなく、他者とコミュニケーションをとることに課題がある。

・自分の気持ちを伝える、要求や意思を伝える事などに課題がある。

<支援の手立て>

・数人でトーキングゲーム（カードゲーム）をプレイ

①ひとり2枚パスカードを持ち、順番に山から一枚ずつカードをめくる。

②書かれているお題（好きな食べ物は？etc…）に沿って答える。

※答えられない、答えたくない際にはパスカードを出す。

③答え方は本人が選ぶ（できる限り単語ではなく理由なども書くよう促す）

【教育的目標】

・筆談や絵カードなど様々なコミュニケーションツールを経験し、自分に合ったコミュニケーションの方法を見つける。

・自分の気持ちや要求、自分の事を他者に伝えることができる。

【様子および効果】

・自動読み上げアプリや絵カードのアプリなどは、使ってみた結果本人が「好まない」ということで除外した。

・入力する形式のコミュニケーションアプリは「めんどくさい」という気持ちがある。

【今後に向けて】

- ・必ずしもメモや書く物が手元にあるわけではないため、多くのツールを経験して使えるようにしたい。
- ・単語のみになりがちなので、理由や考えなどをできる限り詳細に伝えられるように工夫していく。

高2②

使用場面： 自立活動（タブレット型端末、ゲームアプリ「パンケーキタワー」）

<対象生徒について>

- ・自発的に言語でコミュニケーションをとることに課題がある。
- ・丁寧な言葉遣いに課題がある。

<支援の手立て>

- ・行動や台詞をルール化することで、発話や行動を促す。

①操作できるパンケーキはひとり1枚

②隣の人に渡すときは『〇〇さん、どうぞ』と言って対面で手渡す

③失敗した人を責めない

【教育的目標】

- ・自発的に言語でコミュニケーションをとることができる。
- ・丁寧な言葉遣いで他者とかわることができる。

【様子および効果】

- ・シンプルな操作なので、習熟度に関係なくゲームに参加できる。
- ・協力して新記録を作っていく面白さがあり、クラスの大半の生徒が楽しみにしている。かわりが苦手な生徒も、積極的に操作や行動をする。
- ・当初はルールを無視して何枚も置こうとする生徒もいたが、回を重ねることで守ることができるようになった。

高2③

使用場面： 自立活動（タブレット型端末「YouTube」）

<対象生徒について>

- ・体重が増加して、階段を上るのも、息が切れてしまう。
- ・こだわりが強く、時折動きが止まる。
- ・自主的に運動することが難しい。

<支援の手立て>

- ・自分のペースで体を動かすように楽しい音楽に合わせて簡単な動きの繰り返しをする。

【教育的目標】

- ・楽しく体を動かすことができる。

【様子および効果】

- ・はじめに、よく知っているラジオ体操からはじめることで、スムーズに準備することができる。
- ・次にする動きが、先に表示されているので、わかりやすい。
- ・20分ぐらいを目途にしているため、少し汗ばむぐらいで終了しているため、苦にならない。

【今後に向けて】

継続して、自分のペースで体を動かしていく方法を探していく。

高3①

使用場面：教科としての自立活動の時間（タブレット型端末「Yahoo 乗換案内」）

<対象生徒について>

待ち合わせの場所に電車を使って行く場合、何時何分の電車に乗ればよいのか、またその電車に間に合わせるには何時何分に家を出たらよいか理解していない生徒が多い。iPad には日頃から触れている生徒が多い。

<支援の手立て>

プリント学習と併せて、待ち合わせ（約束）の時間に間に合うためには、何時何分発の電車に乗り、そのためには自宅を何時何分頃に出ればよいか考える学習を行っている。その際に「Yahoo 乗換案内」の使い方を伝えることで、待ち合わせの時間に間に合わせる。

【教育的目標】

待ち合わせの場所に電車を使って行く場合、何時何分の電車に乗ればよいのか、またその電車に間に合わせるには何時何分に家を出たらよいか理解する。

インターネットの乗換案内の使い方を知る。

【様子および効果】

繰り返し学習することで、乗換案内の使い方が定着してきた。

【今後に向けて】

教員の支援がなくても一人で乗換案内が使えるように、繰り返し学習する。

高3②

使用場面：自立活動の授業、朝の自立活動の時間（タブレット型端末 Google・「タイピング練習」のアプリ）

<対象生徒について>

- ・CF（キャリア・フロンティアコース）性
- ・1年次から企業実習、作業所実習などを経験している。
- ・8人中5人が卒業後すぐの企業就労を希望。1人は職業訓練校、2人は福祉サービス（作業所）希望。

<支援の手立て>

- ・情報を得ることや入力練習が必要なこと（将来役に立つなど）をわかりやすく説明する

【教育的目標】

- ・実習先（進路先）について詳しく知ること、自分の進路がより具体的にイメージできるようになる。
- ・PC 入力がより正確に、速くできるようになる。

【様子および効果】

- ・教員から伝えられた情報だけでなく、自分自身が調べて得た情報で、よりその企業（事業所）のことを知ることができ、新たな発見ができた。
- ・入力が少しずつ上達している。生徒の自信につながっている。

【今後に向けて】

- ・入力練習は継続する。

高3③

使用場面：自立活動（タブレット型端末「YouTube」）

<対象生徒について>

教員相手ならば、コミュニケーションが取れるが、生徒同士になると会話が続かない。話題に困る、会話の型がわからない様子が見られる。

<支援の手立て>

それぞれ生徒たちが一つのコーナーを担当し、自分の好きなものを友だちに紹介する。

好きなもの(ゲームダンスやコント)を紹介する際に「Youtube 動画」を利用する。

【教育的目標】

仲間と一緒に自分の好きな歌やコント動画を視聴することで、会話の型を習得したり語彙を増やしたりする。

【様子および効果】

動画を見ることで模倣しやすく、自信をもってよく話せるようになった。

動画によって友だちの話をさらに正確に想像できるようになり、共感が強くなった。

【今後に向けて】

教員が仲介したり、場を設定しなくても、休憩時間などで友だちと会話を楽しめるように取り組む。

第3節 まとめ

全校研究テーマ：ICTの効果的活用

▶R4 全校研究テーマ「場面を絞ったICTの効果的活用の探求」

今年度の取組み

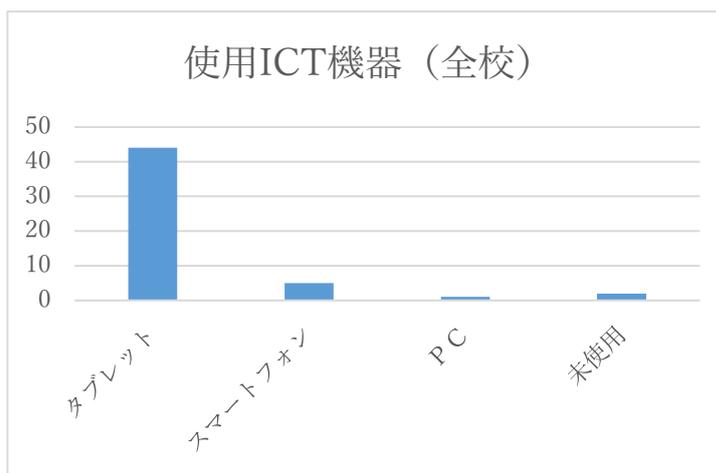
学校生活における各場面で、各学級でクラスの児童・生徒を対象に、ICT機器の活用とシートの作成

本校の学級総数 52(小学部：17、中学部15、高等部20)

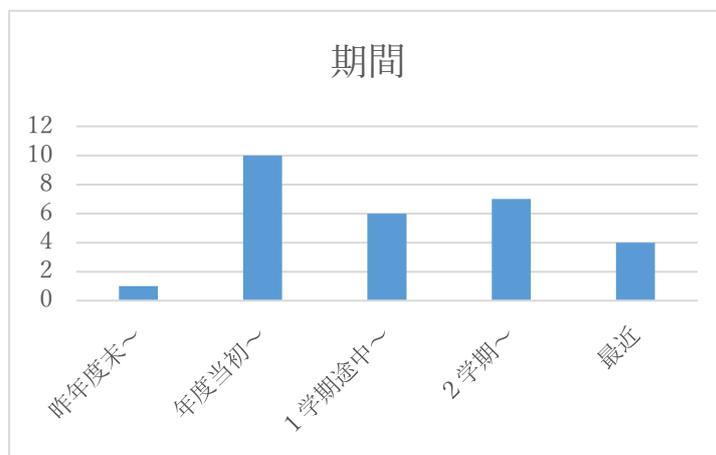
全校研修シート及び意見交換会のまとめ

1. 使用ICT機器の種類
2. 取組み期間
3. 場面
4. 教育的目標と自立活動6区分
5. 教育的目標—支援の手立て—使用アプリ

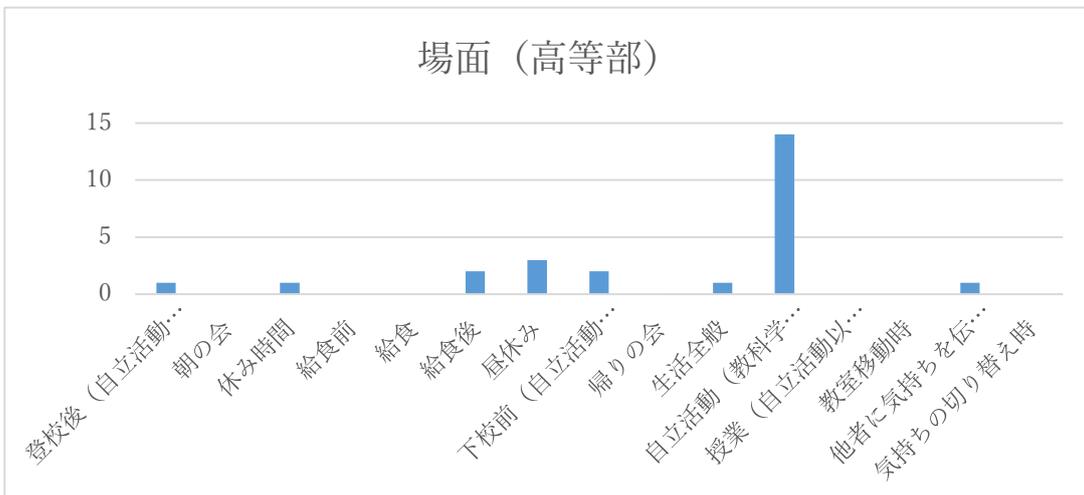
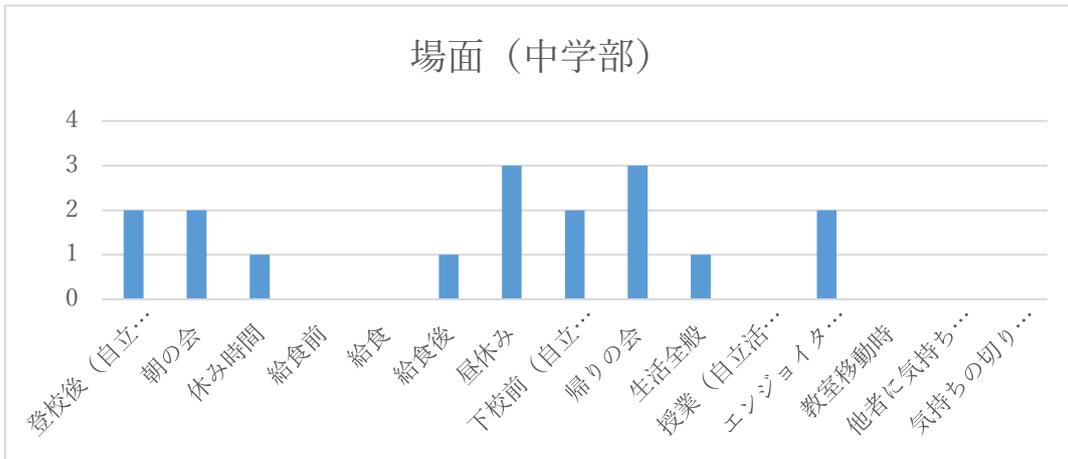
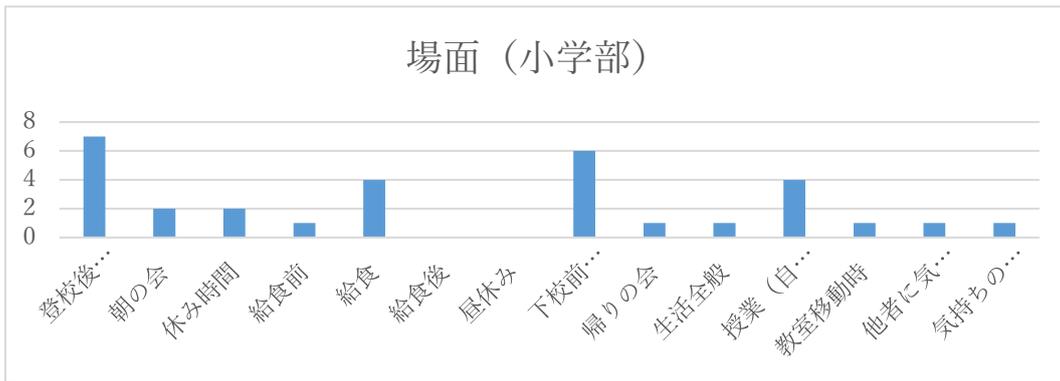
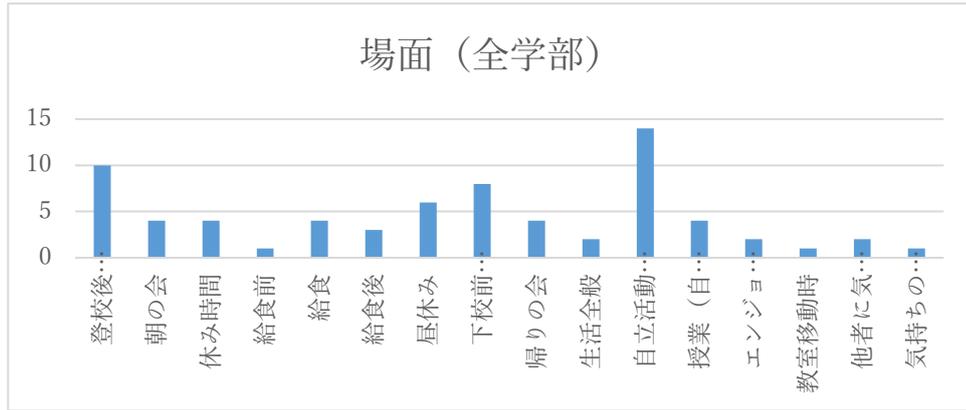
1. 使用ICT機器の種類



2. 取組み期間

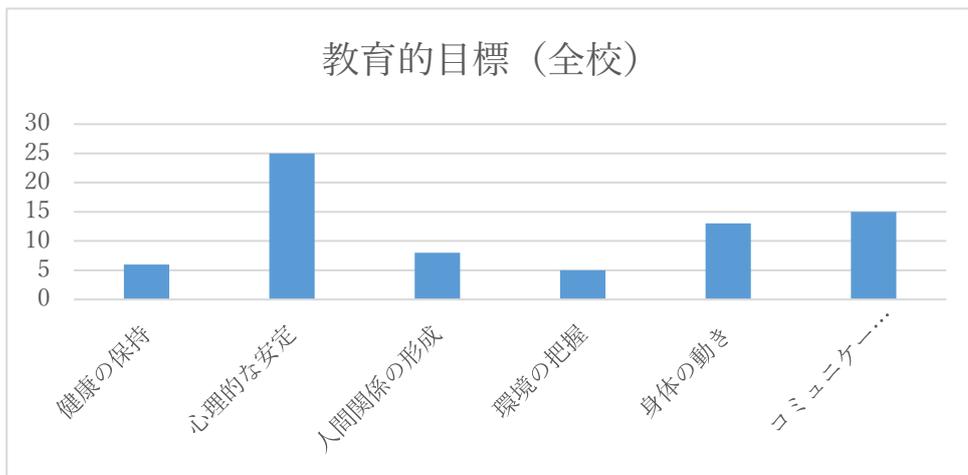


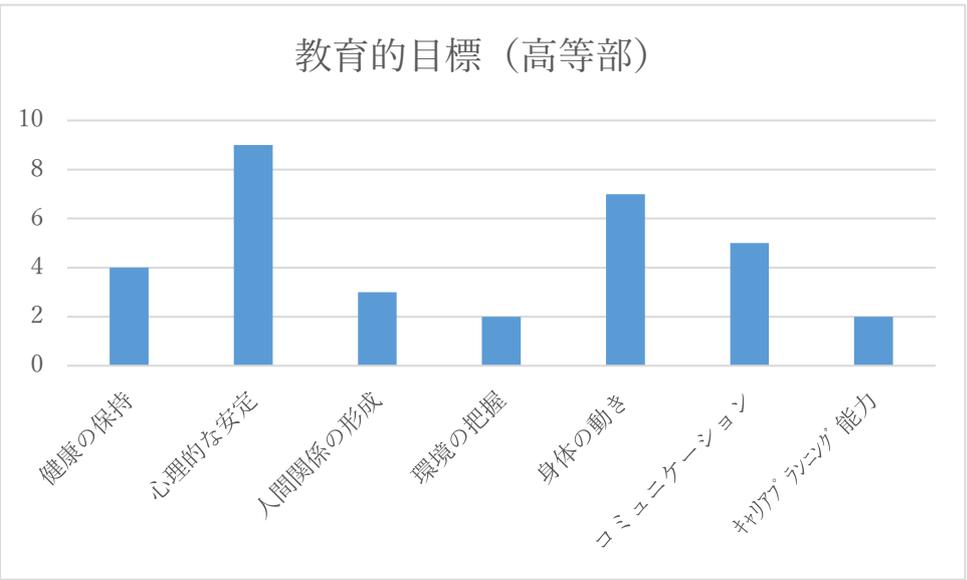
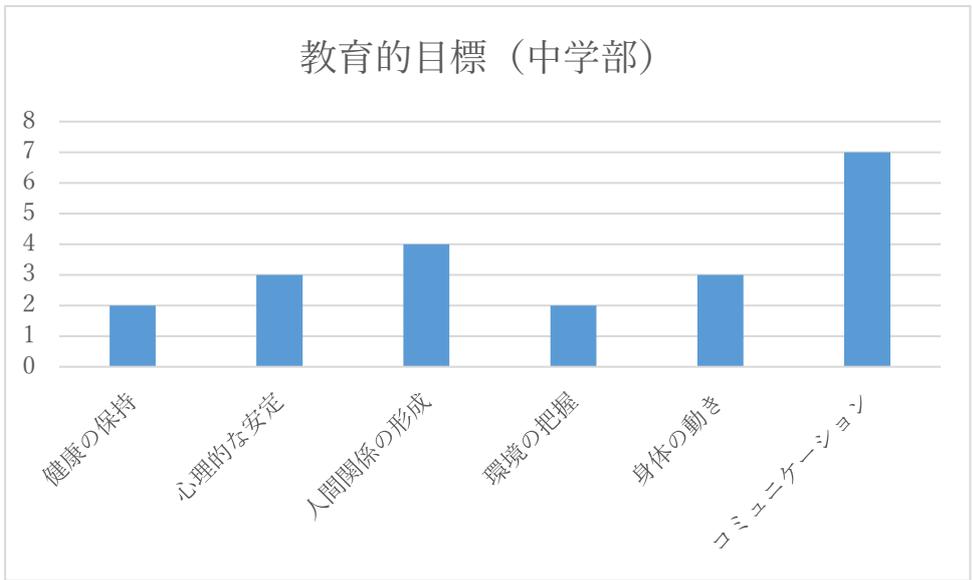
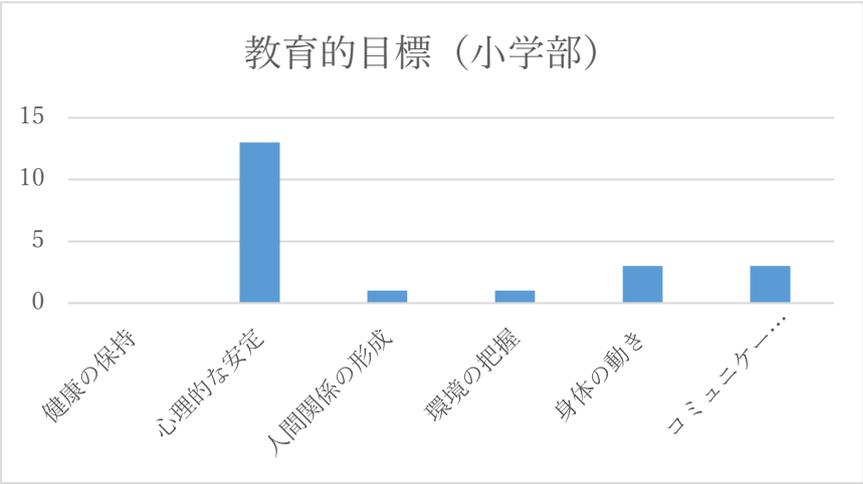
3. 場面



4. 教育的目標と自立活動6区分

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成
体力の増進 運動の習慣化	見通し 気持ちの安定 切り替え 集中力の向上 興味の増幅 学習意欲の向上	人との距離感 集団への参加 適切な行動の習得 ルールの習得
環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
代行手段 時間の意識 注視	正しい姿勢の獲得 手指の巧緻性 体力の増進 運動の習慣化 姿勢の保持と注視	意思の伝達 発声、発音の獲得 ていねいな言葉遣い 話し方の習得





5. 教育的目標・支援の手立て・使用アプリ

教育的目標	支援の手立て	使用アプリ
見通し (予定,内容,選択肢)	写真やイラストの提示(予定や給食メニューの確認、場所の選択)	写真
気持ちの切り替え	行動の動機付けとして言葉かけ等と効果音の併用	効果音
時間の意識	活動時にタイマーの提示	タイムタイマー、ネズミタイマー
集中力の向上	課題達成時にタブレット使用	好きなアプリ、GarageBand
ルールの習得	ルールを守れた時に使用時間を決めタブレット使用	YouTube
気持ちの安定	使用時間を決めてYouTubeの視聴	YouTube
学習の意欲や定着	視覚的にわかりやすく興味を引く学習教材の提示	ワオっち!、プレスタパーク かいものだいすき 等
人との距離	言葉に合わせイラストを併用し提示	Key note
集団参加	時間を決めて好きな動画の視聴	YouTube
適切行動の習得	問題行動の場面に撮影し振り返り、適切な行動動画の提示	写真
代行手段	アプリによるコミュニケーションツールの獲得	コミュニケーション、読み上げ

教育的目標	支援の手立て	使用アプリ
姿勢の意識	よい姿勢と悪い姿勢の写真の提示	Keynote,写真
注視の獲得	写真の提示	写真
体力増進、運動の習慣化	動画で動きを見てトレーニングをする	YouTube、ActiveAcrade
手指の巧緻性	指先を使うアプリの使用	IVIS ペイント
意思の伝達	気持ちや行動を伝えるツールの活用	えこみゅ、ごじゅーおん
発声の土台作り	呼気を反映させ、息の量を増やす	気合乃一吹
発音への自信	日直の司会の手順シート	写真(アルバム機能)
話し方の習得	写真をもとに振り返り	写真
ていねいな言葉遣い	ゲームを介し言葉遣いのルールを設ける	パンケーキタワー

コミュニケーション向上	視聴後に簡単な質問の選択肢を選ぶ	YouTube
スキルアップ(電車利用)	アプリで電車利用時に時間を確認	Yahoo 乗換案内
(タイピング)	アプリでタイピング練習	ホームポジション
余暇の過ごし方	ルールを決めてタブレットの使用	YouTube